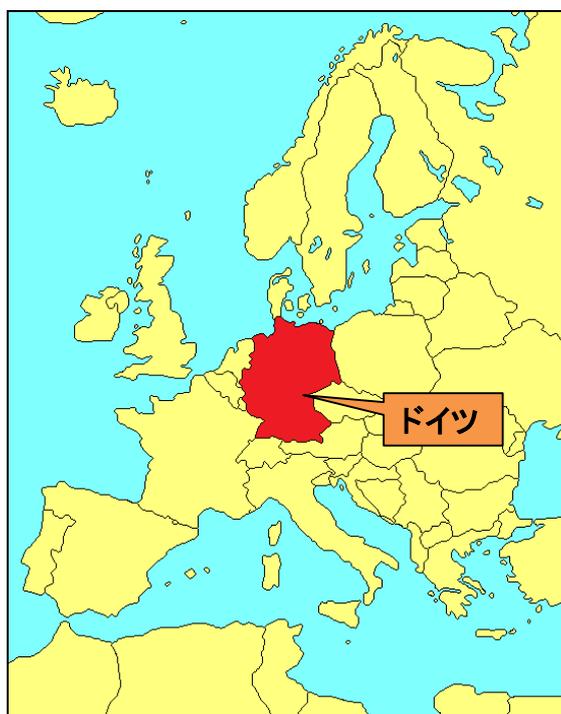


ドイツでハンタウイルス感染症が流行

2010年4月27日 ProMED 情報



ドイツ、バイエルン州の健康・食品安全局(LGL)は、今年初めからすでに38名のハンタウイルス感染患者が発生したことを、ドイツ被雇用者健康保険会社(DAK)からのデータより確認しました。昨年1年間では21名の患者が発生しました。また今年はいまだドイツ全体で213名の患者がコッホ研究所に報告されています。

LGL 広報官によると、Lower Franconia 地域では、ハンタウイルス感染患者がすでに18名報告されています。Swabian Alps 地区、バイエルンの森 Bavarian Forest 地区および Main-Spessart 地域はバイエルン州のハンタウイルスが分布する主な地域でした。この感染症の Lower Franconia 地域への拡大は、同地区の森林地帯の拡大との関連が考えられます。

ウイルス分布の広がり、基本的にはハタネズミの発生(ドイツでは *Myodes glareolus* がバイエルン州のハンタウイルスである Puumala ウイルスの自然宿主)に関係があります。2009～2010 年はハタネズミの食物であるブナの実が豊富にあったため、ハタネズミは越冬できました。2001年にハンタウイルス感染患者の調査が開始されてから、2007年には、バイエルン州では最も多い296名が報告されました。

この感染症はインフルエンザに似て、2～3日間発熱、頭痛、腹痛、背痛が続きます。Puumala ウイルスによる感染では症状は比較的軽症です。特徴としては、腎障害をきたすことです。まれに胃腸出血と脳出血を起こすこともあります。まれです。

厚生労働省 福岡検疫所